

午後からのフォーラム(写真二段 児頑張れとのメッセージを、織田邦目)では、報道も取り上げた、岸田 男元空将からは、専守防衛、ボジ首相のビデオメッセージが流され、タイプの問題など、河田恵昭関西大緊急事態条項に関して憲法改正に前学特任教授からは、大災害の緊急事向きの発言がなされ、ジャーナリス 態を、松本尚日本大学特任教授からトの櫻井よしこさんからは、日本男 はパンデミックの対応において思想

憲法フォーラム声明文

憲法改正で危機突破を！―各党は参議院選挙で改憲の必要性を訴えよ
現在、わが国は、数年前には予想すらできなかったほどの未曾有の国難のさなかにある。

国内に目を向ければ、一昨年来、新型コロナウイルス感染症が幾度も大流行を繰り返し、現在も一時より落ち着いてきたとはいえ、なお収束の兆しをみせず、再流行の危険性が指摘されている。また三月十六日深夜に宮城・福島両県を中心に発生した地震は、我々に東日本大震災を思い起させた。我々は、いっどこで感染症の流行や大規模自然災害に直面してもおかしくない国土に住み暮らししているのである。

海外に目を転ずれば、二月二十四日に始まったロシアによるウクライナ侵略は、国際法を踏みにじる力による現状変更への挑戦が実際に起こりうること、また国連安全保障理事会の機能不全など、国際社会の冷厳な現実をわが国に突きつけた。

このウクライナの現実、軍事的拡張を続け尖閣諸島周辺海域での領海侵入を恒常化させている中国、核弾頭を搭載した弾道ミサイル開発をやめない北朝鮮、北方領土を不法占拠すると我が国周辺での軍事訓練を活発化させているロシアと、「力による現状変更」を目指す国々を隣国に持つわが国にとつては、他人ごとではない。例えば、毎日新聞世論調査(三月十九日)では、「日本の安全保障が脅かされる不安」を八十七%が感じるとし、産経・FN合同世論調査(三月二十一日)では、「中国の武力による台湾や尖閣諸島の危機につながる可能性」を八十四・二%が懸念していると述べている。

ところが緊急事態の発生や安全保障上の危機を想定していない現行憲法が、わが国が危機を突破するための諸施策を実施する際の壁となっていることは、今日、誰の目にも露わとなつてきている。

ここに、憲法フォーラムの開催にあたり、我々は、感染症の収束や安全保障上の危機克服に向けて国民の団結を呼びかける。それとともに国会ならびに各党各会派に対しては、国家の独立と国民の命と生活を守るため、憲法改正によって国難に対処できるよう、来る参院選において堂々と改憲の必要性を国民に訴えらるとともに、結束して改憲内容の早急な合意形成を図るよう、強く要望する。

令和四年五月三日

美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会

が必要と、それぞれ憲法改正を強く訴えた。

避難してきたウクライナ国立バレエ団のエレナ・ドブリヤンスカヤさん他幼小児二名を含む九名の方達が来られ、守屋順子様が紹介されました。五千五百km運動して避難した女性、二千km歩いてきた女性。そして四歳女兒が会場で泣き続け、守屋様によると、黒い服の大人を見ると後ろに手を縛られ、殺された多数の人々を思い出して泣き止まなかったそうです。会場で呼びかけられたウクライナ募金は八万一千円集まりました。

地元国会議員からは、盛山正仁、関 芳弘、片山大介、和田有一朗各氏から、各々挨拶がなされ、その後、質疑。意見交換がなされた。参議院選挙にて改憲を訴えることの要望や、ICC(国際刑事裁判所)の日本の分担金の割合、シェルトーナなどの話題

では神戸市は地下の有効利用を市長が認めた事を守屋市議から回答され



た。その後佐藤実行委員が声明文を朗読し、三木英一共同代表の挨拶で閉会となり、時宜に合った内容の濃いフォーラムとなった。(事務局)

神戸支部「セミナーと語らいの夕べ」第八回「湊川神社御創建百五十年」開催

神戸支部のセミナーと語らいの夕べでは、湊川神社の権宮司の西原秀樹様を講師として、湊川神社御創建百五十年について二十名程でお話を頂いた。

最初に、幕末から明治にかけての湊川の境内には、様々な業種の方々が出店を出して、その大変賑わった様子がありありと伝わってきました。

そして、ご創建には、薩摩藩、尾張藩、兵庫県関係者などが請願していたこと、そして、一旦は薩摩藩の請願が承認されたが、禁門の変により話が進まなくなっていた。その後、尾張藩からも京都に湊川神社をとの請願があがったが却下され、さらに、当時発生した神戸事件も契機となり、たまたま明治天皇がその頃、大阪に行幸啓になられていたことも重なり、兵庫県から伊藤博文等が請願してまもなく勅許が降りて、湊川神社の御創建が実現した。

参加者からは、「ご創建頃の情景のお話はなつかしさを感じた」、「日本の各地からの請願があつて御創建に初めて聞いた」等の感想が得られた。(事務局)